くまもと

'88市勢要覧
KUMAMOTO

●目　　次

熊本市民愛市憲章……1
市木・市花・市鳥……2
発刊のことば……3
ロマンに満ちた新しいふるさとづくり……4
熊本のあゆみ……6
名誉市民……13
地域と気象……14
人　　口……15
（地域経済の活性化）
産　　業……19
商　　業……20
工　　業……21
雇用福祉……22
農林水産業……23
観　　光……24
（変革の時代への対応）
国際交流……29
婦人の地位の向上・消費者行政……30
高齢化社会……31
心身障害者福祉……32
児童・母子福祉……33
社会保障……34
（魅力ある都市環境の形成）
緑と水の保全と創造……37
公害防止……38
保健衛生……39
都市景観の整備……40
住　　宅……41
上下水道……42
清　　掃……44
公園緑地……46
道　　路……47
防　　災……48
消　　防……49
都市計画……50
基幹交通……52
市営交通……54
交通安全……55
（21世紀を支える人材の育成）
学校教育……57
学校施設……58
社会教育……59
地域文化……60
健康文化……61
（市制100周年に向けて）
市議会……64
行　　政……66
熊本市行政機構図……67
財　　政……68
広報・広聴……70
市民のくらし……71
熊本市案内図……72
資料編……73
市内の主な官公署……83
熊本市歌

〔題字……熊本市長 田尻清幹〕

〔表紙説明〕

熊本城

熊本城は、かつて大阪城、名古屋城とともにわが国三名城に数えられた城郭で、慶長12年（1607）加藤清正ガ7年の歳月をかけて、周囲9km、大天守、小天守、櫓49、櫓門18をもつ複雑かつ壮大な城をつくった。

明治10年（1877）、西南の役の時に、原因不明の火災によりそのほとんどが焼失し、昭和35年9月現在の大天守、小天守が再建された。

熊本市民愛市憲章

——品位ある市民の誇りのために——

私たち熊本市民は
清潔で住みよい街をつくりましょう
私たち熊本市民は
郷土の自然や文化財を大切にいたしましょう

昭和35年5月11日制定

私たち熊本市民は
時間を正しく守りましょう
私たち熊本市民は
交通道徳を重んじましょう
私たち熊本市民は
互いにあたたかく交わり旅行者を親切に迎えましょう

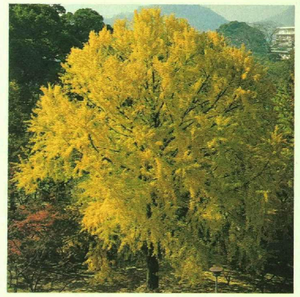
熊本市章

ひらがなの「く」の字を図案化したもので、市民の調和を基とし、たくましく発展する熊本市の姿を太い円で示したものです。

市木・市花・市鳥

市木・市花　昭和49年10月9日制定
市　　鳥　昭和59年5月22日制定

●市　花
肥後椿（ツバキ科）
江戸時代から細川藩の庇護を受け、藩士をはじめ寺社地の豪族等の愛好者によって広められ改良を重ねて、清雅枯淡の味わいある銘花となったといわれている。肥後椿の特色は薄色の花弁が主流でよく整った一重咲きで、中心に金糸銀糸のような色鮮やかな太い雄しべが梅芯のように盛りあがるところにある。



●市　木
イチョウ（イチョウ科）
熊本市民には熊本城が銀杏城といわれているようになじみ深く、強健で樹齢が長く、市街地の街路に多く植栽され、独特な尖円錐形の樹形をつくり春の緑陰、秋の黄葉とその美しさでよく知られている。

●市　鳥
シジュウカラ（シジュウカラ科）
全長約14.5cmで、美しい澄んだ声でさえずり、多量の害虫を食べ、緑を守る益鳥として市民に親しまれている。金峰山や立田山、託麻三山など森に多く生息し、白い胸に黒ネクタイ状の帯が目立つ可愛い姿で、四季を通じて観察される。

（写真は東海大学出版会提供フィールド図鑑より）

発刊のことば

明治22年4月に市制を施行した熊本市は、その優れた歴史と伝統や、緑と水の美しい自然環境のもと、先人のたゆまざる努力によって発展を続け、来年、昭和64年に、いよいよ記念すべき市制百周年を迎えます。

今日の九州中央における拠点都市としての本市の姿は、明治、大正、昭和の三代を通して、幾多の困難を克服し、まちづくりに邁進された先達の御労苦の賜でありますが、現代に生きる私達、熊本市民は、この先達の志を受け継ぎつつ、間近に迫った市制百周年を契機とし、本市を更に、21世紀における九州中央の雄都として発展させ、市民にとって住みやすく、誇りとし得る新しいふるさとへと変貌させていかなければなりません。

本市においては、この目標の達成に向けて、社会経済の全般にわたり大きく変化を遂げつつある我が国内外の情勢を展望しつつ、今、中小企業の育成、観光の活性化、都市農業の振興等の「地域経済の活性化」、国際交流の推進、長寿社会の福祉対策、婦人行政の展開等の「変革の時代への対応」、緑と水の保全と創造、美しい都市景観づくり、社会資本の積極的整備等の「魅力ある都市環境の形成」、そして「21世紀を支える人材の育成」を市政の重点課題と位置づけ、これらと当面の最重点課題である市制百周年への対応とを連動させ、特色ある熊本づくりに邁進いたしております。

具体的には、市民の共感と参加を基調とする市制百周年記念イベントの成功に向け、プレキャンペーン、プレイベントの積極的展開を図りつつ、都心部シンボル・ゾーンの整備、熊本流通情報会館、総合婦人会館・カルチャーセンターの建設等の記念事業を、本市の将来発展に通ずる対応として具体化させている状況にあります。

このたび刊行いたします昭和63年版市勢要覧は、このような伸びゆく熊本市の姿を収録いたしたものであり、御高覧のうえ、市政への一層の御理解をお深めいただければまことに幸いに存じます。

最後に、今後とも市民の皆様と相携え、個性ある熊本市づくりに全力を傾注する私の決意を表明し、熊本市政への皆様の一層の御支援、御協力をお願いいたしまして、発刊のことばといたします。

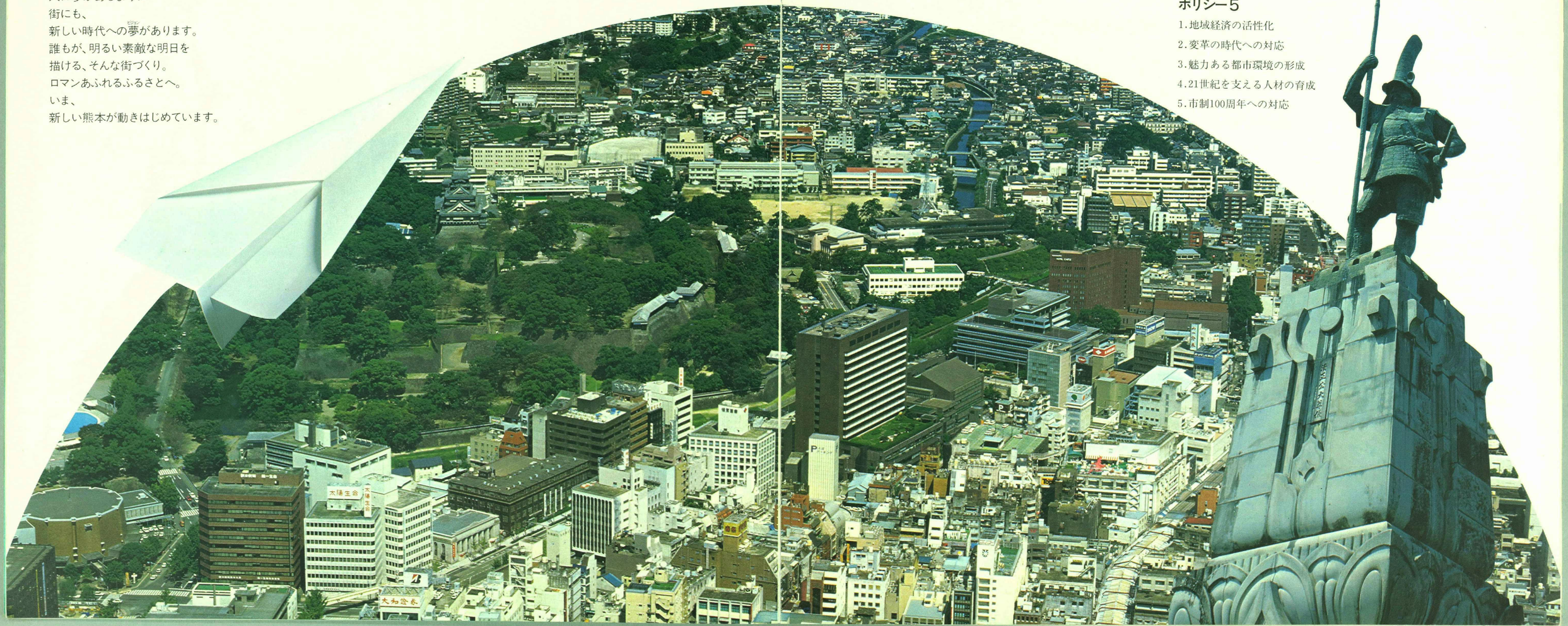
昭和63年3月　熊本市長　田尻靖幹

ロマンに満ちた新しいふるさとづくり

人に夢があるように
街にも、
新しい時代への夢があります。
誰もが、明るい素敵な明日を
描ける、そんな街づくり。
ロマンあふれるふるさとへ。
いま、
新しい熊本が動きはじめています。

ポリシー5

1. 地域経済の活性化
2. 変革の時代への対応
3. 魅力ある都市環境の形成
4. 21世紀を支える人材の育成
5. 市制100周年への対応



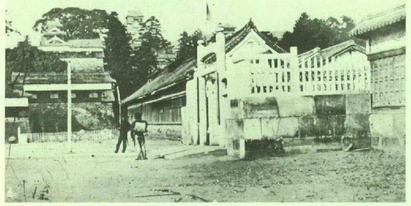
熊本のあゆみ

THE COURSE OF KUMAMOTO

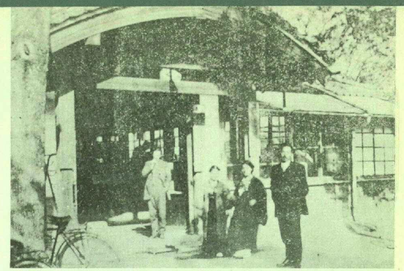
阿蘇を眺む熊本は、昔から「火の国」と呼ばれてきました。大化の改新のあと、奈良時代に入って、現出水町に国府がおかれ、ここを中心に聚落が形成されるようになりました。こののち、平安、鎌倉時代を経て室町時代になると、菊池一族である出田秀信が、はじめて熊本に千葉城を築き、数代後の城主鹿子木親員が、新しく茶臼山に城を築いて隈本城と呼びました。

豊臣時代に入って秀吉は全国を制覇するや、小西行長と加藤清正に肥後を分領させたが、徳川の天下になると、加藤清正は肥後54万石の領主となり、慶長6年から茶臼山に築いていた新城を、隈本城から熊本城に改めました。熊本市が町としての体制を整えたのはこのころからです。続いて細川忠利が肥後の領主となり、大政奉還までの二百有余年を細川家が政治を行ってきました。

明治10年西南の役で兵火を受け、市街地の大部分を灰燼に帰したが、直ちに復興し、明治22年には熊本市が誕生しました。そして九州における政治、経済、教育の中心地として発展を続けました。大正から昭和にかけて隣接町村を合併しつつ都市の基礎を固めてきた熊本市は、大戦末期の昭和20年に空襲で、復興期の28年には未曽有の大水害で、市街地は壊滅的な被害を受けましたが、これを克服し、その後数次の市域拡大と近代的都市機能の集積により、いまや人口56万余人を擁する大都市として躍進を続けています。

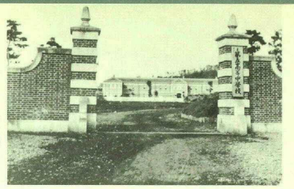


鎮台花畑本営と熊本城、現在の市民会館前から撮影したもので大小天守閣が見える。明治5年頃。



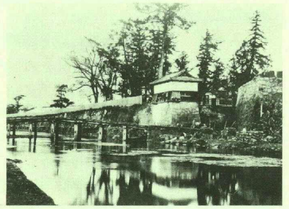
新南千反畑町の旧区役所跡に熊本市役所は開庁した。

	西暦	年代	おもなできごと
大化	646	大化2年	砂取付近に肥後の国府および兵力4軍団が設置される
文明	1469	文明1年	菊池氏の一族、出田秀信　千葉城を築く
明応	1496	明応5年	鹿子木親員、古城に居城を移し、隈本城と称する
慶長	1601〜1607	慶長6〜12年	加藤清正、現在地に熊本城を築き、河川の築堤、井戸の掘削など行う
寛永	1632	寛永9年	細川忠利、肥後藩主となる
宝暦	1754〜1756	宝暦4〜6年	藩校時習館、医学校再春館、藩滋園（薬草園）などが創設される
明治	1870	明治3年	古城に医学校が創設される
	1871	4年	廃藩置県により熊本県が設置される 鎮西鎮台（九州および中国西部を管轄）が設置される 熊本洋学校が創立される
	1874	7年	九州最初の新聞、白川新聞が発行される
	1877	10年	西南の役、市街地の大半が兵火により焼失した
	1886	19年	熊本通信管理局（郵務・電務関係）が設置される
	1887	20年	第五高等中学校（九州に1校）が創立される
	1889	22年4月	市制町村制が施行され、熊本市が誕生する 市域面積5.55㎢、人口42,725人、戸数11,797戸 市議会議員数30人、市職員48人であった
		6月	赤十字社熊本支部設立 新南千反畑町、現在の白川公園前に市役所が開庁
		7月	第五高等中学が古城から黒髪に移転
	1890	23年1月	熊本測候所が設置される
		7月	第1回衆議院議員総選挙が行われる
		10月	教育勅語発令（井上毅と元田永孚が成案）

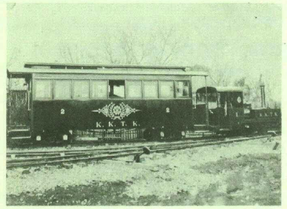


明治20年古城に新設された第五高等中学校は、同22年立田山麓の黒髪に移転。

明治34年に市内の電話が開通した。交換手の白い上衣、紫袴は当時の女性の憧れだった。



旧熊本城南大手入口の下馬橋。明治35年11月の陸軍大演習の際、行幸坂、行幸橋が造られ姿を消した。



軽便鉄道。K.K.T.Kは熊本軽便鉄道株式会社の略。

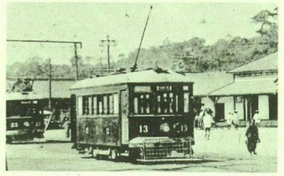
	西暦	年代	おもなできごと
明治	1890	明治23年11月	第1回帝国議会が開かれる
	1891	24年7月	門司・熊本間の九州鉄道が開通　熊本電燈会社が開業し九州に初めて電燈がともる
		11月	ラフカディオヘルン（小泉八雲）五高に着任
	1892	25年4月	塘林虎五郎が貧児寮（現大江学園）を設立
	1894	27年7月	第6師団に動員令がくだる。孤児・貧児の養育を目的とした天使園が設立される
		8月	日清戦争がはじまる
	1895	28年11月	イギリス人ハンナ・リデル女史が回春病院設立
	1896	29年4月	夏目漱石が五高に着任、熊本を森の都と称賛
		9月	私立医学校が設立される
	1898	31年1月	熊本専売支局が黒髪町に葉煙草専売所設置
		10月	フランス人、ジョン・メリー・コール神父が癩救済の待労院を設立 この年、市立避病院設立（後の白川病院） 第23連隊練兵場が山崎町から渡鹿に移る
	1899	32年6月	私立医学校が熊本医学専門校となる
		12月	三角線開通
	1900	33年7月	市内に大洪水、白川の橋ほとんど流失し、子飼橋付近溺死者多数
	1901	34年1月	熊本郵便局が電話業務を開始
	1902	35年11月	明治天皇をお迎えし、陸軍特別大演習を挙行　行幸橋を架設
	1903	36年3月	市区改正の事業と新市街の事業完成
	1904	37年2月	日露戦争はじまり、第6師団出征
	1906	39年3月	熊本高等工業学校設立
		9月	夏目漱石が「草枕」を発表
	1907	40年7月	九州鉄道が国有となる
		12月	熊本軽便鉄道株式会社が安巳橋・水前寺間に軽便鉄道を敷設
	1908	41年2月	人力車争議おこる
	1909	42年	鹿児島本線全線開通
	1910	43年1月	薬学専門学校発足
		4月	女子師範学校発足
		6月	熊本ガス株式会社が開業する
	1911	44年4月	市立実科高等女学校開校　市立工業徒弟学校開校
		10月	菊池軌道株式会社が上熊本・広町間敷設
大正	1913	大正2年	この年、熊本軌道が田崎・百貫港、田崎・高麗門に開通

熊本のあゆみ
THE COURSE OF KUMAMOTO

大正２年10月３日二階建八角形の肥後相撲館が落成した。

大正10年、隣接11ヶ町村を合併し大熊本市が発足した。記念碑前で合併を祝う人たち。

大正12年12月、市役所新庁舎完成。



大正13年８月１日市電開通。救助網がついている開通当時の13型電車。

大正末の市街地。合併による市域の拡大、三大事業の完成など、市の中心から周辺へと都市づくりが進む。

西暦	年代	おもなできごと
1914	大正３年７月	第１次世界大戦はじまる
1915	４年11月	御大典記念奉祝共進会を開催
1916	５年６月	県公会堂が市に移管される
1917	６年３月	熊本市工業従弟学校が熊本商工学校となる
1918	７年７月	このころより全国に米騒動
	10月	スペイン風邪が流行し、全国で死者15万人
1920	９年10月	第１回国勢調査で、市人口70,388人 戸数　13,817戸（市史）
1921	10年６月	隣接11ヵ町村を合併、人口133,467人 戸数23,819戸の大熊本市が発足（黒髪・池田・花園・島崎・横手・春日・古町・本荘・春竹・大江・本山）
1922	11年４月	熊本市立実科高等女学校が熊本市立高等女学校となる
	５月	熊本医学専門学校が医科大学に
1923	12年12月	手取本町に市役所新庁舎完成
1924	13年８月	市営電車開通（車輛15台）開通に伴い鉄筋コンクリート大甲橋を架設
	10月	歩兵第23連隊が渡鹿に移転
	11月	熊本市上水道完成
1925	14年３月	市三大事業（市電、上水道、23連隊移転）完成記念共進会開催　入場者133万人
	４月	出水村を市に合併
1926	15年８月	三大事業完成記念共進会の剰余金で五高と下河原にプールを造成
1927	昭和２年２月	長六橋を近代式鉄橋に架け替える
	７月	市立工業研究所（後の工芸指導所）が開所
	12月	市営バス発足（バス17台）
		この年、市及び市付近の人力車812、乗用馬車４、自動車115
1928	３年２月	第16回総選挙、最初の普通選挙行われる
	６月	ＮＨＫ熊本放送局でラジオ初放送
	９月	御大典記念事業として、陸上競技場・野球場が完成
1929	４年７月	水前寺動物園が開園
1930	５年３月	熊本市歌を制定
	４月	市営勧業館が新市街に開館
	10月	市公会堂新館が開館
1931	６年６月	白坪村を市に合併

大正　昭和

昭和２年12月から17台の市営バスが走り始めた。（写真は昭和８年６月）

西暦	年代	おもなできごと
1931	昭和６年11月	天皇陛下をお迎えし、熊本平野等で陸軍特別大演習を挙行
1932	７年９月	失業救済の土木事業をはじめる
	12月	画図村を市に合併
1933	８年３月	花園町に市営墓地を開設
	４月	熊本高等小学校が再設開校　熊本駅に観光案内所を設置
1935	10年３月	新興熊本大博覧会を開催
1936	11年11月	健軍村を市に合併
1939	14年４月	清水村を市に合併
1940	15年12月	川尻町、日吉村、力合村を合併 この年、市営バスに木炭車登場
1941	16年４月	小学校が国民学校に改められる
	12月	太平洋戦争はじまる
1942	17年４月	九州日日新聞と九州新聞が統合され、熊本日日新聞が発足
1943	18年	この年、学徒、女子挺身隊の戦時動員が開始される　健軍に三菱重工業航空機製作所が完成する
1944	19年３月	市電気局が市交通局と改称
1945	20年６月	市立産院が発足
	７月	７月・８月の空襲で市の大半が焦土と化す
	８月	終戦の詔書放送
1946	21年２月	市立市民病院発足
	11月	日本国憲法公布（新憲法） この年、学校給食はじまる
1947	22年４月	市長、県知事が初めて公選で決まる　国民学校が小学校に、また新制中学が誕生
	５月	憲法、地方自治法施行
1948	23年３月	市消防本部設置　市立母子寮を開設 市自治警察本部設置（新警察制度発足）
	４月	新制高等学校発足する
1949	24年４月	「火の国まつり」はじまる　市立実務員養成所（後の実務商業）を開設
	５月	天皇皇后両陛下ご来熊 この年、国立熊本大学発足　県立熊本女子大学が創設される
1950	25年６月	朝鮮戦争おこる
	７月	市競輪事業開設
1951	26年４月	市教育研究所を設置

昭和

昭和４年７月に水前寺動物園が開園。

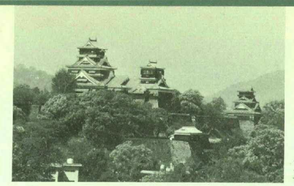
昭和５年５月、公会堂の新館が開館。昭和43年市民会館の出現に伴い取りこわされた。

昭和10年３月から５月にかけて開かれた新興熊本大博覧会。

昭和10年頃の新市街記念碑前、市営バスの発着所。左に専売局と公会堂、右に勧業館、電話局が見える。

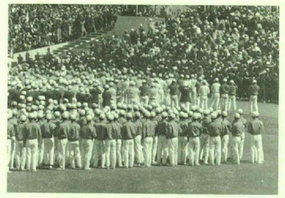
熊本のあゆみ

THE COURSE OF KUMAMOTO



昭和35年9月、83年ぶりに熊本城天守閣が再建された。

「昭和28年6月26日」大水害の惨状。到る所泥の山。流失した家財などで復旧に多くの人手、資材と時日を要した。（上通り筋）



昭和35年10月、第15回国民体育大会は、全国から1万3千人が集まり盛大に開催された。

昭和43年1月6日市民会館が完成。1,800人収容の大ホールと各種の会議室を備えた近代建築。

西暦	年代	おもなできごと
1952	昭和27年1月	市立博物館開館
	7月	住民登録制度を実施
1953	28年4月	田迎村、御幸村を市に合併
	6月	豪雨、大水害で市人口の66%が罹災
	7月	池上村、高橋村、城山村を市に合併
	10月	市立図書館発足　ラジオ熊本開局
1954	29年6月	市自治警察廃止（警察制度改正）
	10月	秋津村を市に合併　市電30年記念「交通観光博覧会」を開催
1955	30年4月	松尾村を市に合併
1956	31年4月	託麻村の一部を市に合併
1957	32年1月	小島町、龍田村を市に合併
	7月	大水害で市の33%が浸水し、金峰山周辺の山津波で死者行方不明多数を出す
1958	33年2月	ＮＨＫ熊本テレビ開局
	4月	中島村を市に合併　天皇皇后両陛下ご巡幸で立田山、水前寺などをご観覧 第30回選抜高校野球大会で済々黌が優勝
	9月	熊本市体育館が水前寺公園横に完成
1959	34年4月	国民年金制度発足
	7月	国民健康保険制度発足
1960	35年4月	熊本空港開設
	5月	愛市憲章を制定
	8月	熊本城天守閣再建完成
	9月	第15回国民体育大会を開催
	12月	西保健所を開設
1962	37年3月	天守閣再建記念「躍進熊本大博覧会」開催
1963	38年4月	北部清掃事業所開所
1964	39年4月	市総合計画策定（マスタープラン）
	10月	「まちをキレイにする運動」がはじまる
	12月	東部汚水処理場完成
1965	40年4月	市食肉センター開所　この年、市内全小学校にプール完成
1966	41年9月	西部清掃事業所開所　市民相談室を設置
	10月	熊本保健所が九品寺1丁目に新装発足
1967	42年3月	出水町に県庁新庁舎が完成
1968	43年1月	市民会館開館

昭和

昭和46年6月熊本・植木間の高速自動車道が開通した。

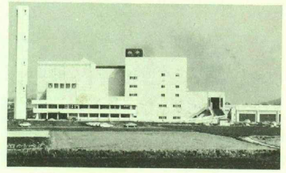
西暦	年代	おもなできごと
1968	43年4月	市社会教育会館が開館　市育英奨学制度創設
1969	44年4月	熊本（水辺）動物園が完成し、「熊本動物大博覧会」を開催
	8月	熊本市章きまる
1970	45年11月	託麻村を市に合併
1971	46年4月	新熊本空港開設
	5月	市勤労青少年ホーム開館
	6月	九州縦貫高速自動車道（熊本・植木間）開通
	7月	熊本市基本構想きまる
	11月	市立ユースホステル開館
1972	47年10月	「森の都」を宣言し、森の都作戦を展開
	12月	秋津下水処理場が完成
1973	48年1月	戸島町に市斎場開設
	5月	学校給食東共同調理場が完成
1974	49年6月	勤労婦人センターを本山町に開設
	10月	西部、南部市民センターが完成 森の都のシンボルとして市の木「イチョウ」、市の花「肥後ツバキ」がきまる
1975	50年5月	身体障害者福祉モデル都市に指定される
	9月	南千反畑町に中央老人福祉センターが完成
	10月	市立金峰山少年自然の家が開所
1976	51年3月	「地下水保全都市」を宣言
1977	52年4月	西南の役百周年記念式典を行う
	5月	熊本市人口が50万人を突破
	9月	錦ヶ丘に東部市民センター完成 地下水保全条例を制定する
1978	53年4月	新しい熊本博物館が開館
	8月	市民総参加の「火の国まつり」が誕生
1979	54年4月	東部清掃工場完成 新熊本市民病院開設
	7月	熊本市保健センター（現東部保健センター）が開所 龍田市民センター完成
	10月	「健康都市」を宣言 中国・桂林市と友好都市締結 市制90周年記念式典を行う 養護老人ホーム明生園開園

昭和

昭和52年9月東部市民センター開設。

郷土熊本に根ざした西日本一を誇る熊本博物館が昭和53年4月1日に開館した。

昭和53年8月、熊本の新しい夏まつり、市民総参加の「火の国まつり」が始まる。



昭和54年4月最新の処理機能を誇る、東部清掃工場完成。

熊本のあゆみ
THE COURSE OF KUMAMOTO

昭和54年10月1日、市制90周年の記念すべき式典の席上で中国桂林市と友好都市締結。

昭和56年3月、産業文化会館が開館。

昭和56年11月、新市庁舎建設完成。

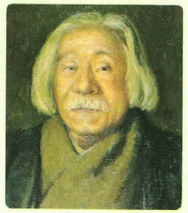
昭和62年9月、教育センターオープン。

昭和62年12月、米国サンアントニオ市と姉妹都市締結。

西暦	年代	おもなできごと
1980	昭和55年6月	身障者福祉センター希望荘開設
	8月	水害で約16,900人の市民の罹災者を出す
	12月	熊本市総合計画基本構想きまる
1981	56年1月	熊本市保健衛生研究所開設
	2月	熊本城西大手櫓門復元完成
	3月	産業文化会館が開館
	5月	託麻市民センター完成
	7月	熊本市総合計画基本計画きまる
	8月	西ドイツ・ハイデルベルク市へ友好訪問団を派遣
	10月	熊本市民の翼、友好都市桂林市を訪問
	11月	新市庁舎建設完成
1982	57年6月	幸田市民センター完成　北部保健センター開所
	7月	小楠記念館完成　青少年野外活動センター完成
	8月	西ドイツ・ハイデルベルク市管楽五重奏団来熊
	11月	図書館完成
1983	58年4月	龍田体育館完成
1984	59年5月	市の鳥としてシジュウカラ制定　扇田埋立処分場供用開始
	7月	清水市民センター完成
	8月	熊本市の人口が55万人を突破
	10月	消防新庁舎完成
1985	60年6月	母子福祉センター完成
	8月	秋津市民センター完成
1986	61年1月	熊本市自転車駐車場完成
	3月	電子計算システム始動
	4月	西部清掃工場完成・東部清掃事業所開所
	7月	総合体育館・青年会館開館
	8月	第4回全国都市緑化くまもとフェア開催（8月1日～10月12日）
	10月	10月1日を「市民健康の日」と制定
1987	62年1月	新西保健所開所
	4月	川尻下水処理場運転開始
	5月	「ふれあいの森林」内に森林学習館がオープン
	9月	西消防署が移転新築　教育センターオープン
	10月	第1回熊本緑化祭開催
	12月	米国・サンアントニオ市と姉妹都市締結

昭和

名誉市民



徳富蘇峰（本名・猪一郎）氏
（昭和30年1月1日表彰）

近世日本の先覚者。また、世界に稀な優れた思想家であった。
熊本在住中は、白川新聞、熊本新聞等を発刊。大江義塾の創始者として子弟の教育に専念し、その啓蒙の影響が大であった。
文久3年1月25日生れ、昭和32年11月2日死去、95歳。

高橋守雄氏
（昭和30年1月1日表彰）

第7代熊本市長として、歩兵23連隊の移転・市電・上水道の開設の三大事業を完遂、市の近代化、発展繁栄に尽した。また、教育者として熊本商大、短大学長を歴任、郷土教育の振興育成に努力した。
明治16年1月1日生れ、昭和32年5月6日死去、73歳。

細川護立氏
（昭和35年4月1日表彰）

肥後旧藩主細川家16代。有斐学舎舎長、肥後奨学会設立、多額の奨学金を出資して本県出身学徒の育成援護に尽した。国の文化財保護委員会委員として、本市の重要文化財、史跡、名勝等の保存活用に貢献。明治16年10月21日生れ、昭和45年11月18日死去、87歳。

福田令寿氏
（昭和35年4月1日表彰）

医師開業のかたわら、医専五高等で教鞭をとり子女の教育に専念の外、社会文化、社会福祉の要職を歴任、郷土の文化・福祉の向上発展に尽した。清廉・潔白な人格者であった。
明治5年12月7日生れ、昭和48年8月7日死去、100歳。

宇野哲人氏
（昭和44年10月1日表彰）

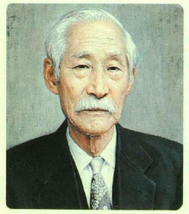
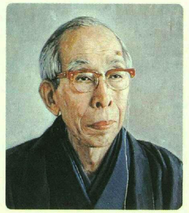
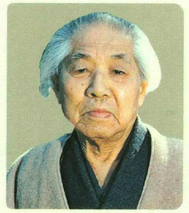
東京帝国大学での漢学・中国哲学の教授、東京大学名誉教授、実践女子大学々長、名誉教授等優れた業績は、郷土熊本の文運の興隆に、また、我国の漢学関係の学究者に多大の影響を与えた。
明治8年11月15日生れ、昭和49年2月19日死去、98歳。

堅山南風（本名・熊次）氏
（昭和44年10月1日表彰）

横山大観画伯等に師事し、日本画に精進。その多くの作品の上に、肥後の郷土色のにじみ出た芸術の香りがよく生かされている。日本画壇の第一人者といわれ、また、郷土文化の進展に大きく貢献した。明治20年9月12日生れ、昭和55年12月30日死去、93歳。

後藤是山（本名・祐太郎）氏
（昭和54年10月1日表彰）

元九州日日新聞社主筆。生来の文人墨客の性格と豊かな文筆で、数多くの郷土史を編さん監修、先人についての研究著述があり熊本の文化の啓蒙に尽した。「明星」同人、句誌「かはがらし」（後の東火）を主宰した。明治19年6月8日生れ、昭和61年6月4日死去、99歳。

中村汀女（本名・破魔子）氏
（昭和54年10月1日表彰）

高浜虚子の門下生で、現代女流俳句の第一人者。常にふるさとを愛する心を底流にした〝汀女俳句〟は、氏の人柄と句にふれる人々に、郷土愛を喚起させ、郷土の文化振興に貢献。「ホトトギス」同人、「風花」主宰。
明治33年4月11日生れ、現在87歳。東京都在住。